

令和4年度事業報告書

1 令和4年度の概要

令和4年度は、元年度末からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）（以下、「コロナ」という。）の感染状況が落ち着きを見せ、実施を控えていた事業の規模を抑えつつ徐々に再開した。また、京都市の都市公園等の指定管理者の公募が行われ、それぞれの公園等の特性に応じた提案に基づく申請を行った結果、4公園で指定を受けることができ、今後の協会運営の足掛かりを確保することができた。

事業別にみると、公益目的事業においては、地球温暖化対策、生物多様性の確保、防災、良好な生活環境や地域交流等の面で重要となっている都市の緑を保全・創出するため、京都市緑の基本計画等に基づく活動を推進した。公1事業では、都市緑化に関する各種事業、公園を生かした緑のイベントの開催等を行った。公2事業では、日本庭園の良好な保全管理とともに、京都の庭園文化の情報発信等を行った。

公益目的事業の受託事業収益や、公園収益事業の利用料金収入、自主事業及び販売手数料等収益は3年度での回復基調を4年度も継続させることができた。

法人業務においては、評議員会を1回、理事会を2回、オンライン併用で行ったほか、令和5年度に行う事務効率化や改正電子帳簿保存法への対応等を進めた。

経常収益計は358,546千円であり、前年度（令和3年度）比15,007千円増だった。このうち事業収益は306,154千円、前年度比15,076千円増であり、その内訳をみると、受託事業収益2,518千円増、利用料金収益7,777千円増、販売手数料収入3,874千円増であり、経営基盤としては改善した。

経常費用計は367,264千円、前年度比24,017千円増だった。このうち事業費は363,402千円、同23,891千円増であり、内訳をみると、人件費と役員報酬の合計は効率化の努力で2,348千円減少した一方、修繕費7,014千円増、水光熱費6,992千円増、委託費8,676千円と大幅に増えた。特に修繕費及び水光熱費の増加は、おもに公園施設老朽化とウクライナショックに伴う電気料金値上げによるものであり、思わぬ痛手となった。

経常収益の堅調な回復を、経常費用の急激な増加が上回ったため、当期一般正味財産増減額は8,718千円の赤字となり、12期ぶりの赤字となった。

2 令和4年度の実施状況

I 公益目的事業

決算額 214,946 千円（予算額 194,191 千円）

I-1(公1)都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業

決算額 193,226 千円（予算額 171,764 千円）

都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりを目的として、管理運営する公園等を拠点として、各地域において講習会、イベント、広報その他様々な事業を行った。施設閉鎖等で中止とするイベントも多くあったが、定員削減や密集を避ける等の予防対策が

可能なものを実施した。

令和4年度に行われた京都市建設局所管の都市公園等4施設の指定管理者の公募に応じ、審査の結果、3公園（梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園、円山公園）の指定管理者に指定された。

(1) 園芸・造園に関する人材育成

ア 園芸講習会(前期・後期)

市民を対象として、園芸、造園など緑化に関連する技術・知識の普及を図った。

前年度に引き続き、（公財）京都SKYセンターと共催し、同センター会員の参加も得て、1日2回開催。

- ・講師 花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 前期 257人／後期 300人 ・参加者数計 557人

	回	開催日	実施内容
前期	第1回	5月26日	初夏から秋に咲く草花の育て方とそれを生かした寄せ植え
	第2回	6月21日	ハンギングバスケットによく使用される植物の育て方とハンギングバスケットづくり実習
	第3回	7月15日	繁殖と実生苗を用いた小盆景づくり実習
	第4回	8月18日	多肉植物の育て方・多肉植物を用いた寄せ植え実習
後期	第1回	10月20日	秋咲き草花の解説とその植物を使った寄せ植え実習
	第2回	11月10日	秋植え球根と冬咲き草花の講義と実習
	第3回	12月8日	クリスマス飾りの講義と実習
	第4回	2月16日	冬咲きの草花の講義と実習
	第5回	3月16日	春咲きの草花の講義と実習

イ プランター菜園教室(前期・後期)

玄関周りやベランダ等で楽しむ家庭菜園づくりの方法を学ぶ講習会。前期、後期ともに1日2回開催した。

- ・講師 花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 前期 200人／後期 178人 ・参加者数計 378人

	回	開催日	実施内容
前期	第1回	4月22日	夏野菜の育て方及びその播種と植え付け実習
	第2回	5月26日	夏野菜とハーブ等の育て方（バジル、トウガラシ、落花生等）
	第3回	6月10日	夏野菜とハーブ等の育て方（イタリアンパセリ、サツマイモ、黒エダマメ等）
後期	第1回	8月26日	秋冬野菜の育て方及び植え付けと播種実習
	第2回	9月16日	秋冬野菜等の育て方（茎ブロッコリー、セロリ、紅ミニダイコン等）
	第3回	10月14日	秋冬野菜等の育て方 （京壬生菜、春菊、イチゴ、スナックエンドウ、花菜）

ウ 園芸セルフケア教室

園芸療法士の指導により、公園花壇等の植物の手入れを通して自身の健康チェ

ックと生活リズムを整え、参加者間の交流を図った。

- ・講師 花と緑の普及員 寺田裕美子 ・開催日 毎週木曜日
- ・受講者 31人 ・参加者数のべ784人(50回)

エ 地域での出張園芸講習会等

まちなみ緑化等支援事業((5)ア)や行政からの要請等により、地域団体や学校等での出張講習の開催協力及び講師を派遣した。(下表は実施例)

場所／テーマ	開催日	参加人数	備考
株式会社SCREENホールディングス(上京区)／希少植物保全緑地の管理	5月30日	4人	まちなみ緑化等支援
浄住寺保存会(西京区)／文化財環境保全地区にふさわしい管理法の相談	9月10日	9人	まちなみ緑化等支援
朱雀第三小学校(中京区)／ミズナ栽培実習	10月26日	60人	中京区地域愛とみどりを育てる環境学習事業
福田金属箔粉工業株式会社(山科区)／緑化相談、オミナエシ等保全	11月8日	6人	緑のまちづくり支援業務
開晴小中学校(東山区)／八坂神社のオケラ収穫とをけら詣りへの奉納	11月1日、12月8日	27人	
皆山学区女性会(下京区)／簡単コケ玉づくり教室	12月10日	24人	緑のまちづくり支援業務
植柳学区女性会(下京区)／新年の寄せ植え教室	12月24日	14人	緑のまちづくり支援業務
清水長金属工業株式会社(南区)／フタバアオイ等植栽・栽培相談	3月25日	5人	緑のまちづくり支援業務

(2) 自然環境に関する講習会・体験活動

ア 体験型講習会、自然観察会等

自然観察会、プレイパークでの子ども及び家族向け自然あそび教室等を開き、自然環境に根差した地域の歴史や生活文化を学ぶプログラムも行った。事前申込制などコロナ対策を徹底して開催した。

ア 梅小路公園自然観察会の実施

様々な生き物に親しみ、自然の仕組みを理解いただくことを目的として、ビオトープ「いのちの森」をはじめとする公園内での自然観察会を実施した。講師は京都ビオトープ研究会いのちの森モニタリンググループ。

① 月例等定期の観察会

- ・各回の実施内容(計12回・参加者計155人)

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月16日	植物の観察 1	10月15日	植物の観察 5
5月21日	植物の観察 2	11月19日	植物の観察 6
6月18日	きのこの観察	12月17日	植物の観察 7
7月16日	植物の観察 3	1月21日	野鳥の観察
8月20日	植物の観察 4	2月18日	苔の観察
9月17日	きのこの観察	3月18日	植物の観察 8

② 子ども緑の学校～梅小路公園子ども自然観察会

植物の生長を見守りながら、稲の田植えから収穫、脱穀などを体験する全7回シリーズ。小学生を対象とした。

・受講者 28人 ・参加者数のべ 154人

b 宝が池公園自然あそび教室

① 子どもの楽園周辺の自然を生かした教室等

子どもの楽園とその周辺の自然環境を生かし、遊びながら学べる教室を実施。自然観察、クラフト、自然の仕組みや生活文化等を学ぶ多彩なプログラム。

・開催日 原則第1・第3土曜日

・実施回数 計33回 ・のべ参加人数 769人

・プログラムのテーマ例 ツツジに染まる宝が池ハイキング、春の野鳥観察、森のしくみとキノコの不思議、夏休み生きもの大接近1・2、夏休み水辺の探検・発見隊、ナイトウォッチング、草花の観察&藍染体験、縄文土器づくりに挑戦、勾玉をつくろう・石器を使おう、ネイチャーゲームを楽しもう1・2、木の実の観察&食べてみよう、森手入れとリースづくり、野鳥観察と巣箱づくり、冬をむかえる森と生きものの姿、剪定木小枝でクラフト作品をつくろう、ロープの結び方・ロープあそび体験等

イ 環境学習養成講座

a 宝が池連続学習会

「森をしらべる・森をそだてる・森をつたえる」ための連続学習会。自然資源の低利用、シカ被害等の森の問題を座学とフィールドワークで考える。4年度は特に「森を楽しく利用しながら再生する」をテーマに、新たなゲストも迎え実施。

・共催・京都府立大学森林科学科、「宝が池の森」保全再生協議会

・場所 上高野防災会館、宝が池公園等

・参加者数 のべ 114人

回	開催日	内 容／講 師（敬称略）
第1回	6月26日	ガイドンス：宝が池の森での多様な活動とそれを支える再生方針／鎌田磨人（徳島大学）、石川麻衣子（森のようちえん「どろんこ園」）
第2回	7月24日	森と水辺をつなぐいきものたち～宝が池・湿地調査／竹門康弘（京都大学）、森川裕之（NATURE WPKS）
第3回	9月17日	パークマネジメントを考える～事例を交えて／赤澤宏樹氏（兵庫県立人と自然の博物館）
第4回	10月30日	生物多様性の保全とワイズユース～いのち輝く森の利用とルールづくり／山本清瀧（東京大学）、高柳敦（京都大学）
第5回	12月4日	里森のゾーニングを考える～多様なポテンシャルが活きる森の将来像の描き方／田中和博（京都先端科学大学）
第6回	1月8日	楽しみながら森の再生をすすめよう（森林の手入れ作業）

(3) 花とみどりの相談所（緑の相談所）運営

ア 相談業務

植物、園芸等に関する技術的な無料相談を梅小路公園で行っている。件数は前年より9.3%増加し、面談による相談の割合は前年度24.6%から高くなった。

・相談日 毎週2日（水曜日、土曜日）及び出張相談

- ・時 間 午前 10 時～午後 4 時まで（面談又は電話による。）
- ・相談員 植村久美子ほか
- ・相談日数 103 日 ・相談件数（内容別）672 件（うち面談の相談 35.8%）

イ 京都ゆかりの希少植物の保全・普及

各地の団体・個人と連携し、京都の歴史文化に密接に関係しているフジバカマ等の和の花、希少な山野草等の保全・繁殖に取り組み、普及活動を行った。この一環で、「京都市生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」の認定団体など、希少植物保全を行う団体に対してアドバイス（出張相談）、その他の協力を行った。

a 希少植物保全団体への協力

京都市生きもの文化協働再生プロジェクト認定団体等の相談 16 件（うち出張 7 件）

b 施設・環境イベント等での普及啓発活動

京都駅ビル「緑水歩廊」、京都御苑閑院宮邸前でキクタニギクを展示。11 月 17 日～30 日（京都駅ビル開発（株）、（一財）国民公園協会京都御苑、KES エコロジカルネットワーク協力）

c 八坂神社のをけら再生プログラムへの協力

大みそかの風物詩、八坂神社をけら詣りで用いる薬草オケラが府内、国内で希少となっており、入手困難となっていることから、当協会が本殿内に残っていた株の保全繁殖に協力している。NPO 国境なき環境協働ネットワークが呼びかけを行い、地元の開晴小中学校の児童生徒が育てている株から根茎（ビャクジュツ）が初めて収穫でき、12 月 23 日に八坂神社に寄贈、祭事で使ってもらうことができた。（協力・武田薬品工業（株） 京都薬用植物園）

d 京都伝統文化の森推進協議会による東山・菊溪の森づくりへの協力

「京都伝統文化の森推進協議会」（事務局・京都市）が林相改善の一環として高台寺山国有林内の菊溪川支流で市民参加によるキクタニギク植栽を行っており、当協会は、苗を KES 生物多様性プログラム（下記ウ）参加企業・団体の提供により確保するなどの協力を行った。（植栽イベントは令和 5 年 3 月 18 日に行う予定であったが、雨天のため 27 日に関係者のみで実施。）

ウ KES 生物多様性プログラムへの参画

KES（京都環境マネジメントシステム・スタンダード）の認証登録を行う特定非営利法人 KES 環境機構が実施する生物多様性プログラム「KES エコロジカルネットワーク」の企画・実施に参画している。4 年度は計 252 の事業所が参加した。例年行う栽培講習会等は前年度に続き中止となり、栽培セットは本協会で引き渡した。

- ・ネットワーク構成団体 京のアジェンダ 21 フォーラム（（公財）京都市環境保全活動推進協会）、京都市、京都駅ビル開発（株）、KES 環境機構及び本協会

エ 公益社団法人日本植物園協会の活動

（公社）日本植物園協会に加盟し、同協会が呼び掛ける希少植物保全等の活動に関し、在京滋植物園情報交換会等を通じた情報交換、相互協力を行っている。

- ・参加実績 第 57 回大会（5 月 17～19 日、岐阜県・内藤記念くすり博物館）等

(4) 緑のイベントの開催及び支援

緑に関連する団体や京都新聞社、KBS 京都等のマスメディアとの連携を図りながら、植物、緑の文化、公園緑地の多面的な大切さを訴える事業。大半が中止となった。

ア みどりの月間、都市緑化月間等のイベントの開催、協力

a 梅小路公園グリーンフェア 2022 春／秋

みどりや広々とした空間など公園のもつ心地よさ、安らぎ、にぎわいを多くの人に感じていただくため、春と秋の2回実施。コロナ対策のため、2年間実施できなかったが、ブースの間隔を取った密回避や消毒の徹底を行い、20数団体が出展する行事として開催することができた。

開催日		天候	来場者数
春	5月3日(火・祝)	晴	37,000人
	5月4日(水・祝)	晴	35,000人
秋	10月1日(土)	晴	21,000人
	10月2日(日)	晴	18,000人
計			111,000人

b 春の和の花展、藤袴と和の花展

- ・「春の和の花展」 1,022人
- ・「藤袴と和の花展」 1,289人

c 梅まつり in 梅小路

梅の開花期に梅林を囲む柵を一部外し、梅林散策ルートマップを掲示して、自由に散策できるようにした。

d 第36回京都まちとみどり写真コンクール(京都府都市計画協会主催、京都府、京都市、本協会共催) 前年度に続き中止となった。

(5) 市街地緑化事業

ア まちなみ緑化等支援事業

まちなみ修景のため、和の花や和のイメージの容器を、施設、住宅、事業所等の敷地に設置し管理していただく活動や環境対策として、花と緑による修景や地域の交流を図る活動への支援等を行った。(一部は(1)エに重複掲載)

島原のぞみデイサービス(下京区)では、緑化施設「花矢来」が老朽化していたため、園芸セルフケア教室ボランティアの協力で全面改修を行った。

イ 御池通スポンサー花壇巡回管理業務

京都市のシンボルロードである御池通を企業等のスポンサーの寄付により、四季の花で彩る京都市御池通スポンサー花壇事業(花壇基数102基)について、沿道の事業者や市民ボランティアが行う花壇の巡回管理の補助、ニュース発行等の普及啓発を行う業務を受託した。前年度に続きコロナの影響で、協力いただく団体・個人の活動量が減った。

- ・全面植替え3回、巡回管理補助のべ56回
- ・ニュース(スポンサー花壇だより)発行8回、アンケート調査1回

(6) 緑のボランティア団体の活動支援(京都市緑のボランティアセンター)

各地の緑のボランティア団体の活動を支援するための緑のボランティアセンター窓口運営を含む京都市緑のまちづくり支援業務を引続き受託した。有志団体、京都市の公園愛護協力会等に、ニュースレターや『京のみどり』等を通じた情報提供、京都市設置の

和の花モデル花壇、雨庭の管理を行う団体への支援等を行った。

- ・実績 相談 30 件、団体情報発信 11 件、ニュース発行 4 件、出張相談・講習 15 件、巡回・維持管理補助 23 回

(7) 公園緑地の利用促進及び多目的な機能の向上に寄与する事業

当期にコロナ対策の緊急事態宣言の発出はなかったが、流行の波があり「京都 B A.5 対策強化宣言」(8 月 26 日～9 月 25 日)が出され、催事定員等の事実上の規制も一部継続した。事業は規模等に注意して再開し、安全面では、引き続き全手洗い場への石鹸設置、感染予防を呼び掛ける放送・掲示等を実施した。また、施設老朽化や利用密度の高さに伴う修繕を着実に行之、安全安心に利用いただけるよう努めた。

ア 梅小路公園指定管理業務及び関連業務の受託

指定管理業務においては、一部施設の利用を制限する中、良好な維持管理水準と安全安心の確保に努めた。遊戯用電車(チンチン電車)運行業務(指定管理区域外、公園収益事業)は、運転スタッフのコロナ感染により 7 月 16 日～7 月 18 日の期間、また、機械故障のため 4 月 1 日～5 月 22 日、2 月 19 日～3 月 31 日の期間に運行を休止した。

イ 梅小路公園及び周辺エリアの活性化等に関する事業

「梅小路公園・施設管理者連絡会」、エリアマネジメント団体「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト(京都・梅小路まちづくり推進協議会)」及び「京都駅西部エリアまちづくり協議会」(代表・森本幸裕・当協会理事長。商店街、自治連合会、企業、寺院、行政等で構成。)のメンバーとして、また、梅小路京都西駅から西北のエリアの賑わいを目指すエリアマネジメント団体「京都・七条通賑わいづくり協議会」、金融機関、ベンチャー企業、エリアマネジメント団体等で設立された「(株)梅小路まちづくりラボ」の協力団体として、公園及び周辺地域のにぎわい創出の取組に参画した。

a 各施設管理者との連絡調整

各公園施設の管理者が情報交換し、相互の事業の調整や協力、安全確保等のために協議する「梅小路公園・施設管理者連絡会」の事務局を当協会が担い、日常業務の連絡調整等を行っている。

b 「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」環境整備業務の受託

京都駅から公園に至るルートの環境整備を目的とする巡回、モニュメント等の清掃、案内、フラワースポット(コンテナ・地植え花壇)の維持管理等を行った。

c 「官民連携まちなか再生推進事業」への参画

国土交通省補助事業「官民連携まちなか再生推進事業」の採択を受けた、(株)梅小路まちづくりラボを代表とする「梅小路公園クリエイティブタウン・エリアプラットフォーム委員会」(UCAP)に参画し、梅小路公園、周辺施設及び JR 嵯峨野線沿線の施設を巡る新しい観光商品企画開発などに協力した。

d 「資源がくるり」プロジェクトへの参画

京都出身のバンド・くるりを中心として公園で行われる「京都音楽博覧会」の飲食ブースで排出される生ごみを堆肥化し、公園に還元しようと、梅小路まちづくりラボ、和束町の堆肥グループ、当協会などが協力し、堆肥づくりの専門家、鴨志田純氏(東京・三鷹市)の指導でコンポスト(堆肥)ステーションを設置。1 回目の堆肥が 2 月に完成し、同月 9 日に公園のボランティア花壇に使われた。

e 各種イベントの開催・誘致

共催事業を実施するほか、地域団体等が主催する公益性の高いイベントは、開催

協力又は誘致を行っている。令和4年度の共催事業（手づくり市）は、予定通り開催したほか、コロナ対策のため前年度まで現地開催を中止していた大規模なイベント（京都音楽博覧会 I N 梅小路公園、環境イベント Do You Kyoto 等）が開催となった。開催された主なイベント（例）は次のとおり。

開催日	イベント名
第1土曜日	梅小路手づくり市（5月、1月、3月を除く。） ※協会共催事業。
4月2、3日	さくらよさこい（ダンス発表会）
4月29日	第93回京都中央メーデー
5月8日	ビー・トライブ春の発表会（ダンス発表会）
5月21、22日	梅小路フェスティバル
5月29日	下京区民グラウンドゴルフ大会
8月27日	地藏盆イベント
9月25日	リベレーションフェスタ（人権擁護啓発の交流イベント）
10月9日	京都音楽博覧会 I N 梅小路公園（京都出身バンド「くるり」を中心とした野外コンサート。協会特別協力）
10月15、16日	日・タイ・カルチャーフェア
10月29、30日	インディア祭
11月6日	自転車マナーアップフェスタ
11月19日	JA京ベジフェスタ
11月27日	循環フェス
12月10、11日	クリスマスマーケット
3月11日	醍醐味eets（吹奏楽・ダンス発表会）
3月25、26日	環境活動啓発イベント Do You Kyoto（音楽・ダンス発表）

ウ 宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の受託

コロナ対策やまめな清掃に努め、平日を含めた利用者のニーズに応えた。2019年まで行っていた自主的な開園時間の延長は引き続き見送ったが、親水空間（水あそび場）は予定していた期間（5月28日～10月2日）オープンすることができた。

エ 多世代向け事業（プレイパーク、青空健康づくりプログラム等）

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園で、子どもの「遊び、学び、体験」の場を提供するプレイパーク事業を行った。平日にも乳幼児と保護者、平日放課後の小学生を対象としたプログラムや多世代が交流できるプログラムを行った。また、だれもが気軽にできる運動としてウォーキング教室等の健康づくりプログラムを実施した。

a 梅小路公園プレイパーク

新たにNPO法人京都子育てネットワークとの提携により、これまでの昔遊びや団体遊びに加えて、竹細工を用いた遊びなどを取り入れ、四季や自然を感じながら想像力豊かに遊べる遊び場として、月2回開催した。

- ・活動日 原則第2土曜日（時間短縮開催）、第4日曜日
- ・実施回数22回 ・参加者数のべ1,988人

b 宝が池公園子どもの楽園プレイパーク

自由な遊びを中心とする通常プレイパーク活動と特別イベントを、臨時閉園や定員制限の期間を除いて実施。このほか、遠足等の団体に対するプログラムを事前予約で実施した。

① 通常プレイパーク

・活動日 原則日曜日 ・実施回数 21 回 ・参加者数 のべ 4,984 人

② けむんぱクラブ(宝が池ミニプレイパーク)

平日に 4 歳児までの乳幼児と保護者（親子）を対象に、森の散歩やものづくり等を通じて、親子や参加者間のつながりを深めるプログラムとして実施。

・開催日 8 月を除く毎月第 2 金曜日（午前・午後 2 クラス）

・実施回数 計 23 回 参加者数 のべ 412 人（1 日体験を含む。）

③ けむんぱ「森林向上委員会」

児童と保護者（親子等）を対象に、プレイパークゾーン等の森の整備や散歩等を通じて、参加者間のつながりを深めるプログラム。

・開催日 5 月 22 日、12 月 11 日、3 月 12 日 ・参加者数 のべ 79 人

（台風で一部日程中止）

③ 森カフェ

平日の取り組みであり、森に囲まれたプレイパークゾーンで、おしゃべりやランチを楽しみながら子育てにかかわる悩みの相談や情報を交換できる場（共催・森のようちえんどろんこ園）。特別企画として、谷ゆうこ氏（里山保育士・ののはな保育園園長）をゲストに招いた子育て座談会（9 月 27 日）を行うなど、自然を生かして子育て中の家族を応援する機会を提供した。

・開催日 原則第 4 火曜日 ・実施回数 11 回 ・参加者数 のべ 209 人

④ 特別イベント

・5 月 5 日 昭和デー（3 世代で楽しめるイベント）

・11 月 13 日 どんぐりまつり（雨天のため、縮小開催）

c 青空健康づくりプログラム

① ウォーキング教室

だれもが気軽にできる健康増進プログラムとして、梅小路公園の芝生広場でウォーキング教室を（公財）京都市健康づくり協会との提携により開催。運動不足などを原因とするロコモティブシンドローム（運動器症候群、通称ロコモ）予防のメニューを多く採り入れた。

・講師 （公財）京都市健康づくり協会 健康運動指導士・ヘルスケアトレーナー

・内容 ストレッチ、正しい歩き方指導、筋トレ、脳トレ、バランス運動、簡易体力測定、アンケート等

・季節ごとのテーマ

春～夏クール（4～7 月）	心もカラダもスッキリと。いろんな運動を楽しもう！
夏～秋クール（8 月～11 月）	継続は力なり。無理のない範囲でからだを動かそう！
冬クール（12 月～3 月）	背スジを伸ばして寒さに負けない体力づくりをしよう！

・開催日 第 2・4 火曜日 22 回のべ 873 人参加（8 月は熱中症アラート発表のため中止）

オ 公園ボランティアの運営、連携、支援

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園にかかわるボランティア活動により親しまれる公園づくりを進めた。梅小路公園では、花壇管理、ビオトープ運営、市電車両（総合案内所等）の保全を中心とし、宝が池公園子どもの楽園では、子どもの自然体験のサポートを中心として協力関係づくりと支援を行った。

a ボランティア組織「梅小路公園・花と緑のサポーターの会」の運営

週 2 回の定例作業日に園内の花壇等の植栽の手入れを行うほか、講習会の運営補助、公園内外の普及啓発イベントや緑化活動への協力等を行っている。

・会員数 令和 4 年度末現在 35 人 ・実績 活動回数 94 回、参加人数のべ 1,065 人

b 梅小路公園「園芸セルフケア教室」

園芸セルフケア教室（(1)ア c）の参加者による園内花壇の整備活動。

c 市電車両の保全管理及びチンチン電車普及啓発のボランティア活動

市電車両（チンチン電車、市電ひろば車両及び総合案内所として活用する車両）の清掃、点検、簡単な整備、保全管理のアドバイス、イベント時に運行していた市電の写真、模型やパーツの展示等の普及啓発にご協力いただいている。（市電ひろば協力会、日本路面電車同好会関西支部、伏見チンチン電車の会）

カ 社会体験活動等の受入れ

公園での社会体験活動、公園管理運営を研修するインターン学生の受入れを行った。

a 総合支援学校の社会体験活動の受入れ

梅小路公園で、市立白河総合支援学校生徒 12 人の社会体験活動を受け入れ、ボランティアとの協働作業を交え、5～6 月の計 6 日間、管理活動を行っていただいた。

b 学生インターン受け入れ

子どもの楽園で、京都産業大学生命科学部学生 2 名のインターンシップを受け入れ、管理運営にも生かした。（8 月 9 日～9 月 14 日）

キ 円山公園巡回・案内業務

市内有数の観光地である円山公園（国名勝）の施設、樹木の枯損等の確認、サクラ開花案内や紅葉の状況等を含む問合せ対応を京都市から受託して実施した。

ク 岡崎公園芝生広場維持管理業務

梅小路公園芝生広場等の管理経験を活かし、岡崎公園の利用の中心である芝生広場の良好な維持管理に関する業務を引続き京都市から受託した。

ケ 平安神宮神苑「平安の苑」維持管理

平安時代に詠まれた植物を展示する「平安の苑」の管理業務を継続して受託した。

コ さすてな京都（南部クリーンセンター第二工場）千両松の植樹・保全

(8) 広報・出版

ア 広報誌・パンフレット等の発行

a 『京のみどり』（季刊）の発行

緑に親しみ、歩いていただくためのマップ、緑を守り育てる地域・団体の取組を伝える特集を掲載。また、雨庭の意義と事例を紹介するシリーズ、園芸相談、当協会事業、京都市の公園緑地施策、優れた庭園等の情報を紹介した。第 100 号では、地球規模の緊急課題である生物多様性と気候変動の問題を、自然と共生してきた京都の人々の暮らし方から考える記念特集を組んだ。

・各号の特集の概要・テーマ抜粋

第 103 号(夏号) 7 月発行	特集「景勝・小倉山に見る京都三山と文化」【右京区】 雨庭連載「着々と進む雨庭整備 一道路交差点、京都市役所前」
第 104 号(秋号) 10 月発行	特集「京の奥座敷探訪 鞍馬から貴船を歩く」(左京区)／雨庭連載「産学連携、住民参加で企業敷地に雨庭を整備—福岡県立花建設」
第 105 号(冬号) 12 月発行	特集「野山に分け入り、恵みをいただく(山菜)」／ 雨庭連載「熊本『雨庭 2030by2030 パートナースhip』が始動」
第 106 号(春号) 3 月発行	特集「上醍醐と下醍醐の緑を歩く～次世代に残す史跡と緑」【伏見区】／雨庭連載「グリーンインフラとしての雨庭—英国ロンドン」

・部数 各号 7,000 部(配布場所・配布先:市政案内所、区役所・支所、市立図書館、公園愛護協力会、全国の緑化団体等)

イ ホームページによる発信

イベント、公園施設、京都の緑の文化等の情報提供等のため、メインのホームページ(<http://www.kyoto-ga.jp/>)を運営している。メインのアクセス件数(※)は 961,641 件(前年度比 5.7%減)であった。このほか、円山公園の観光案内、深草墓園の利用案内を運営した。

※Visits(訪問者数) 30 分以内の同一 IP をカウントしない実質のアクセス数の指標。

(9) 調査・情報収集

施設管理や情報発信の基礎資料とするため、モニタリング等の調査・情報収集を行った。

ア 梅小路公園いのちの森モニタリング調査

京都ビオトープ研究会のいのちの森モニタリング活動への協力を行い、開園から 26 年を迎えた森の変遷を記録している。生き物を紹介するパネルを掲示し、来園者にモニタリング調査の様子も紹介している。

イ 梅小路公園ウメ・サクラ毎木調査

寄附木を含め、多様な品種があるウメ・サクラの毎木調査を実施し、梅林付近の見どころマップを制作するなど、緑の情報発信の基礎的資料としている。

ウ グリーンインフラ・雨庭の調査研究

グリーンインフラ(GI)や雨庭の調査研究と普及を目指す「京都雨庭研究会」を事務局として運営し、情報収集や企業等の相談に応じた。

・世界銀行東京開発ラーニングセンター(TDLC)・東京防災ハブによる「気候変動に強靱なネイチャーベース・ソリューション(NbS)」をテーマとする研修への協力

途上国都市開発実務者等約 50 人が参加する研修で、講演(森本理事長)、雨庭の視察案内を行った。(2 月 22 日)

I-2(公2)京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業

決算額 21,144 千円(予算額 22,427 千円)

京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与することを目的に、庭園

の保全管理業務、庭園講座等への活用及び優れた庭園に関する情報発信等を実施。

ア 梅小路公園「朱雀の庭」の良好な維持管理と運営

京都が長年培ってきた造園技術を用い、伝統と創生が調和した「朱雀の庭」について、管理保全指針に基づく景観づくりに努めるとともに、活用策としてイベント等を行った。

a 紅葉まつり

紅葉期間中の夜間活性化策として、例年好評の「朱雀の庭」ライトアップを自主事業として実施、ホームページ等の広報、周辺施設・ホテル等へポスター、チラシを配布。

- ・期間 11月11日～11月27日（15日間） 入園者数 6,679人
（前年度入園者数 6,062人）

イ 庭園情報の収集・発信

京都の優れた庭園の情報を収集し、広報誌「京のみどり」、ホームページにおいて、庭園を実際に訪れていただくための発信を行った。また、海外に向けた日本庭園の情報発信のため、造園関係団体と協力して英文サイト（<https://kyononiwa.jp/eng/>）を立ち上げ、令和2年から19庭園の英文記事を掲載しているが、令和3年12月よりセキュリティ対策強化のため公開を中止している。

ウ 庭園文化講座等

日本庭園に関連する「緑の文化」、伝統的技術について理解を深めていただくことを目的に、庭園デザインや関連分野の建築・茶道等の様々な視点から庭園文化を学ぶ講座を実施した。

a 庭園文化講座

- ・講師 吉田昌弘、武田純 ・受講者 のべ72人
- ・各回の実施内容

第1回	1月27日	（座学）庭園の歴史
第2回	2月3日	（座学）庭園のデザイン
第3回	2月17日	（座学）庭園の見方

b

庭園ガイド活動

- 朱雀の庭・いのちの森のガイド活動を、団体向け（予約制）として実施した。
- ・ガイド実績 計2回実施 のべ案内人数40人

Ⅱ 公園収益事業

決算額 148,456千円（予算額 145,722千円）

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の中での収益事業、国立京都迎賓館庭園保全管理業務、深草墓園指定管理業務の受託等を行い、その収益を公益目的事業及び法人業務の財源とした。

このうち指定管理事業では、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた前年度に比べ、収入はコロナ前の9割程度の水準まで回復した。また、自動販売機手数料収益は前年度から大幅な増収となり、コロナ前を上回る収益となった。

また、公園収益事業となっている京都市保健福祉局所管の深草墓園の指定管理者公募に応募し、審査の結果、指定を受けることができた。

ア 自動販売機飲料販売事業

飲料自動販売機の収益はコロナ前と比べても大幅な増収となった。

イ 梅小路公園収益事業(貸室、遊戯用電車等)

貸室の収益は、新型コロナウイルスの影響により、制限があった前年度と比べて増収となった。遊戯用電車の運行業務は、2度の車両修繕やスタッフの新型コロナウイルス感染等で延べ3か月程度の運休となった。

ウ 宝が池公園子どもの楽園駐車場運営事業

新型コロナウイルスによる閉鎖等があった前年度に比べ、収益は大幅に増加し、コロナ前に水準に回復した。

エ 国立京都迎賓館庭園維持管理事業

京都が長年培ってきた造園技術の集大成ともいえる京都迎賓館庭園について、内閣府からの受託事業として、造園に携わった造園業者とともに、管理保全指針に基づき、計画的な景観づくりに努めた。

オ 深草墓園指定管理業務

安全確保のための施設改善、獣害(イノシシ)対策、また、参拝者が京都の季節の花に親しみながら散策をできるよう、納骨堂東側に「和の花散策路」をオープンした。

コロナ対策で2年半中止されていた京都市主催の秋季・春季追悼式典については、秋季は中止期間に納骨をされた遺族、春季は全遺族の約3分の1に人数を制限して開催が再開された。参列できない方々に対しては、その模様を収録し、ホームページで動画配信した。

Ⅲ 法人業務

決算額 3,861 千円 (予算額 3,265 千円)

公益認定関連の法令及び内外の情勢に対応し、法人業務を行った。

(1) 理事会・評議員会

理事会を2回、評議員会を1回開催した。コロナ対策のため、いずれも会場(協会本部事務所)とオンラインを併用して行った。

【理事会】

回	開催日	主要議決事項
第24回理事会 (オンライン併用)	令和4年 5月30日	令和3年度事業報告及び収支決算の件 定時評議員会の招集の件
第25回理事会 (オンライン併用)	令和5年 3月22日	令和5年度事業計画及び収支予算の件 事業推進積立金(1号財産)の取崩しの件 令和5年度資金運用の執行方針及び計画の件

【評議員会】

回	開催日	主要議決事項
第 13 回評議員会 (オンライン併用)	令和 4 年 6 月 17 日	令和 3 年度収支決算の件 理事選任の件、評議員選任の件

(2) KES環境改善活動等の環境対策の実施

K E S（環境マネジメントシステム・スタンダード）の環境改善活動は、認証再取得後、令和 2 年から 2 期目に入り、引き続き 4 事務所で省資源、地域清掃及び希少植物保全活動等に組んだ。

令和 4 年度から温室効果ガス排出量対策としてクラウド管理を導入し、排出量を監視している。また多様な団体と SDG s の連携を図る「京都 SDGs パートナー制度」（運用・京都超 SDGs コンソーシアム）に加入した。

(3) 事業推進積立金への積戻し

令和元年度、新規事業の円滑な推進のため、事業推進積立金 1, 500 万円（1 号財産）を取り崩し流動資産に変更した。当初は 3 年度までに 500 万円ずつ積み戻す計画であったが、コロナ禍による 3 年度の減収のため、3 年度と 4 年度に各 250 万円を積み戻した。

(4) 3大学との包括連携協定

都市緑化事業、指定管理業務に係る分野の拡大や、環境問題に関する情勢の変化に的確に対応し、専門的な協力を得ながら各種事業を推進することにより、地域文化の発展に貢献するため、京都府立大学大学院生命環境研究科（7 月 5 日）、京都大学農学研究科森林科学専攻（8 月 1 日）、学校法人永森学園京都先端科学大学（1 月 26 日）との間で、包括連携協定を結んだ。当協会としては、各大学の研究・教育活動への協力などを行う。

事業報告の附属明細書について

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書の内容である「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので、作成しない。